キャラクター名
秋月　勲

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ハヌマーン	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	１８	性別	男
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	33　%
出自	義理の両親	経験	初恋	邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転：			芸術：芸術：毛並み			知識：学問	4		情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
猫パンチ	白兵	5r+5	1	10		《破壊の爪》 P176　あいてはしぬ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
制服					防御力とか飾りだから。多少はね？

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
携帯	
携帯（仕事用）	
くし	
サングラス	
ハンカチ	
ポッキー	
MAXコーヒー	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
春日恭二	P　執着	N　脅威		
岸川湊	P　好意	N　不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　8	残り財産P：　8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ハンティングスタイル	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	戦闘移動 1シーンLV回							
完全獣化	3	6	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	シーン中【肉体】判定ﾀﾞｲｽ+[LV+2] 素手以外不可							
破壊の爪	2	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	素手を 攻撃力：+[LV+8] ガード：1							
獣の力	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	単体	対決	-	
効果：	<白兵>攻撃力+[LV×2]							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ：ｷｭﾏｲﾗ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	自動	-	
効果：	C値-LV(min:7)							
獣の魂	1	5	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	100	
効果：	【肉体】判定ダイス+5 1シーンLV回							
フルパワーアタック	2	4	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	自身	自動	80	
効果：	ラウンド中攻撃力+[LV×5]行動０							
竜鱗	2	3	ﾘｱｸｼｮﾝ	至近	自身	自動	-	
効果：	装甲値+[LV×10]							
援護の風	2	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果：	ダイス+LV							
獣の直感	★	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	鋭敏な知覚による予測。							
至上の毛並み	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	毛並みがよい。それだけ。							
効果：								
効果：								

名前：あきづき　いさお
誕生日：１１月１８日

「この力で守れる日常があるなら……やれることをやるだけだ…！！」
女子力：１４
ドラテク：９

獅子のたてがみのような金髪と着崩した学ランのせいでどこかの不良の様な風貌の青年。
身長はそれほど高くないが、肩幅が広く、大きく見える。

普段は高校に通う学生。
髪の毛の色や服装のせいで生徒指導対象から外れたことが一度もないのが自慢。
本人曰く、「この髪の毛は俺のポリシー」
そんな不良じみた外見とは裏腹に、面倒見の良さや明るさから友人は多い。
しかし、日頃の無鉄砲さからかついたあだ名は脳みそ筋肉、猪突猛進、熱血馬鹿。
別に成績が悪い訳でもないのになぜかこんなあだ名ばかりである。

彼がオーヴァードに目覚めたのは数年前。重大な事故に巻き込まれ、その際に両親とともに一度死んでいる。
レネゲイドウィルスによって生還した現在、UGNに身を置き、義理の両親である研究者のもとに戸籍を置いている。
オーヴァードになってからというもの、影では自分の知らなかった世界の裏側を駆け回り、
普段はいつもの通りの顔で学校生活を送っている。
今まで自分が過ごしてきた世界とはいったいなんだったのだろうか。